

**事業説明会**  
**—2024年度決算と中期経営計画の進捗—**  
**質疑応答【要旨】**

2025.05.21

**【先進的金属リサイクル事業について】**

**Q1 保有している「高い技術」とはどのようなものか？**

A1 電池廃材は多種多様で顧客によって不純物、廃材性状は様々である。一つの方法ですべてが処理できるわけでない。当社は、廃材に合わせたプロセス設計、また、他社が取り扱いできないものにも、幅広く対応する技術等、長年の分離・精製技術の蓄積をベースに対応可能であり、評価を得ている。

**Q2 「サプライチェーンの構築」が必要とのことだが、どのように確保するのか？**

A2 現在は、使用済み廃電池からのリサイクル材は少なく、電池製造工場から排出される工程廃材が主要な発生源となっている。電池製造工程廃材は発生源、種類、量が確定されている。まずは、このサプライチェーンが検討されており、このサプライチェーンに参入することを最初の目標としている。また、電池製造工程廃材のような固定的なサプライチェーンだけでなく、将来的にはより広いサプライチェーンが求められると考えている。来るべき時に向けて、戦略的パートナーと共に、新しいサプライチェーンも構築したいと考えている。

**Q3 業界内でのポジションは？**

A3 日本では、使用済み廃電池からのリサイクル材はまだ少なく、現状は電池製造工場から発生する工程廃材を処理するサプライチェーンへの参入に、各リサイクラーが取り組んでいる。当社もその検討を進める1社である。サプライチェーンに入るために、当社では福島県に技術実証を目的としたパイロットプラントを建設している。まずは、このパイロットプラントで開発するプロセスと成果をお客様に認めていただくことが、商業用リサイクルプラントの建設につながる。

**Q4 この事業から、どうやって利益を出していくのか？**

A4 お客様と、コスト、CO<sub>2</sub>目標を決めてプロセスを検討している。目標の一つの考え方は、現状の鉱石由来の原料(ニッケル・コバルト・リチウム等)よりもコストを抑え、CO<sub>2</sub>発生量をミニマイズすることである。その価値を付加価値として合意して、利益を出したい。

**【外部環境の認識について】**

**Q5 トランプ政権における電気自動車の市場環境の変化において、どのような影響があるとの認識か？**

A5 車載向け電池市場は、各国のEV支援策の見直しにより、市場環境は急速な拡大予想から一転して慎重な見方となっており、成長は一時的な踊り場を迎えていると考える。また、中国勢の著しい台頭と中国品のシェアアップにより、価格競争も激化し、当社にも影響があることは認識している。このような状況の中、当社としては、市場が踊り場を終えて、再び、成長ポジションに移行した時に存在感を発揮できるよう、将来を見据えて技術やサプライチェーン構築等準備を進めていくことが重要であると考えている。

**Q6 現環境下、中期経営計画において、電池材料において、新しく見えてきた課題はあるか？**

A6 電池材料については、これまでと同様、お客様と目標を共有化して、共同したビジネスを基本とすることに変わりはないが、同時に、当社の特徴と技術を生かした、新たなコンセプトの製品を提案していくことが課題であると認識している。リサイクル原料活用、高エネルギー密度品開発、新たな製造プロセス提案等が課題と捉えている。